

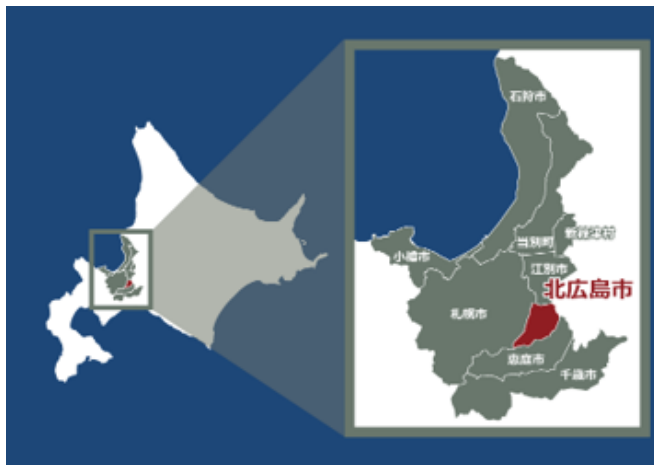
地域住民による学びの拡充、 地域コミュニティづくり

～「生涯学習振興会」による住民主体の地域共創～

1 はじめに

北海道北広島市は、札幌市と新千歳空港の間に位置する人口5万6千人ほどの市です。「自然と創造の調和した豊かな都市」をまちづくりのテーマに掲げ、自然に囲まれた美しいまちなみの中に、市民が住み良さを実感しながら、いきいきと活動するまちを目指してきました。近年では、北海道ボールパークFビレッジの開業に伴い、全国から大きな注目を集め、市内に新たな活気と賑わいを見せています。

一方で、全国の地方自治体が様に直面している少子高齢化の急進や人口減少、地域コミュニティの希薄化という構造的な課題は、本市にとっても決して他人事ではありません。かつての新興住宅地を中心とした住民の高齢化や単身世帯の増加は、地域のつながりをいかに再構築するかという問いを私たちに投げかけています。



激しい社会変化の時代において、教育委員会が果たすべき役割は、学校教育の充実や行政主導の教養講座の提供にとどまりません。今求められているのは、住民一人ひとりが当事者として地域課題に向き合い、学びを通じて互いに支え合うことのできる「持続可能な地域社会」の構築です。そのためには、行政による一方的なサービス提供ではなく、地域住民と行政が対等なパートナーとして知恵と力を出し合う「協働」の仕組みが不可欠です。

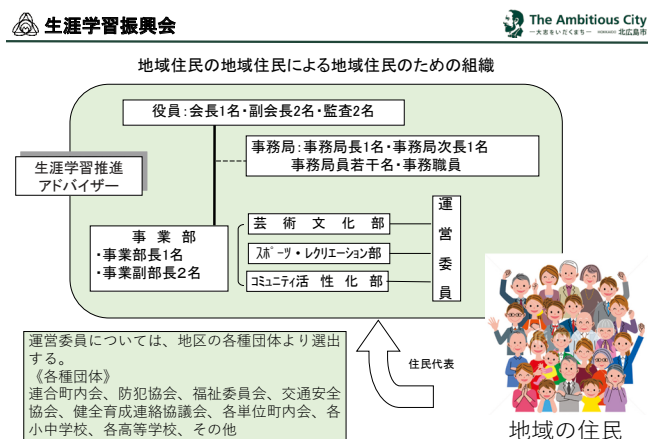
本市では、その協働のプラットフォームとして、独自の「生涯学習振興会」を市内4地区に組織化し、20年にわたり住民主体の地域づくりを推進してきました。本稿では、地域住民が主体となって地域の特性を生かした事業を展開する「生涯学習振興会」の取り組みについて、その理念、協働体制、具体的な実践と実績、そして今後の展望を紹介します。

2 「生涯学習振興会」の基本理念と組織構造

生涯学習振興会は、地域に住む住民が主体となって設立し、運営する自主的な組織です。地域の自治会や町内会の代表をはじめ、PTA 役員、ボランティア団体、民生委員・児童委員、地元の商工関係者、学校関係者などにより運営委員会を組織し、活動の企画・実施に当たっています。役員や会長は住民の中から選出され、年間事業計画の策定から予算管理、実際のイベント運営まで、すべて住民の手で行われています。「自

分たちの学びたいことを自分たちで考え、実施していく」この姿勢と熱意により地域の主体性が育ち、常に新しい取り組みを生み出し続けている原動力です。

現在、市内には団地地区を除く各中学校区に、4つの生涯学習振興会（西部、西の里、大曲、東部）が設立されており、それぞれが個性を持ちながら自主的な運営を行っています。



然に交流し、「顔の見える関係」を築くことで、互いに支え合う持続可能な地域のつながりの構築。

(2) 教育委員会による「伴走型支援」の具体策

■財政的支援（生涯学習振興会交付金）

市は各生涯学習振興会に対し、地区の人口等に応じた交付金を交付しています。各地域がその年度の課題に合わせて柔軟に予算配分できるよう、自主性を最大限に尊重しています。

■人的支援（生涯学習推進アドバイザーの配置等）

各地区に「生涯学習推進アドバイザー」を1名ずつ配置しています。アドバイザーには、地域活動に取り組まれていた方や小中学校の退職校長が任用されており、運営への助言や教育委員会とのパイプ役を担います。

また、教育委員会の社会教育主事も事業や役員会に足を運び、他地域の先進事例の紹介や利害調整を行うなど、地域に深く伴走しています。

3 教育委員会による適切な支援

生涯学習振興会の運営の要は、地域住民の主体性ですが、行政が完全に手を引いて「放任」すれば地域に過度な負担がかかり、逆に行政が主導しすぎれば住民の自主性は薄まります。本市では、双方が役割を分担し、目的の達成に向けて教育委員会が伴走支援する体制を構築しています。

(1) 目的の共有と各種事業の実施

生涯学習振興会と教育委員会は、以下の3つの明確な目的を共有しています。

- ・生涯学習の振興：住民の「学びたい」に応え、身に付けた知識や技術を地域に還元する循環の構築。
- ・健康の保持増進：世代を問わず、誰もが気軽に参加できるスポーツや健康づくりの推進。
- ・地域コミュニティづくり：新旧住民や多様な世代が自

■研修・交流機会の創出

適宜、「生涯学習推進アドバイザー会議」を開催し、教育委員会としての考え方を共有するとともに、アドバイザー間の情報交換の場を設けています。

また、年1回「生涯学習振興会交流会」を開催し、各地区の振興会が互いの事業実践や課題を共有し合うことで、全市的な活動の質の向上とネットワークづくりを図っています。

4 地域の特性を生かした事業展開と活動実績

本市の生涯学習振興会が地域のステータスを得て、継続している最大の要因は、各地区が「地域の特性（地理的環境、歴史、人口構成、住民ニーズなど）」を的確に捉え、事業企画に反映させている点にあります。

令和7年度における各地区の具体的な活動実績と特徴的な事業を紹介します。

(1) 西部地区生涯学習振興会 (平成18年設立)

実績：30事業 / 50回開催 / 参加人数 1,254人
／ 交付金 2,494千円

西部地区は、旧島松駅通所やクラーク記念碑、寒地稲作発祥の地の碑など、北海道の開拓史上において重要な史跡が残る地区であり、「地引網体験」、「アイヌ文様刺繍講座」など、自然体験や郷土の歴史継承に軸足を置いた事業を展開しています。中でも特徴的な事業が「ソクラテスマーケティング」です。キャリア教育の一環として、小中学生を対象に様々な職業人の多様な生き方や価値観に触れ、感じたことをもとに自己の将来や生き方に関して考えることを目的に開催されているものです。講師の多くは地域の大人であり、地域の絆を深める基盤となっています。



(2) 西の里地区生涯学習振興会 (平成19年設立)

実績：30事業 / 35回開催 / 参加人数 1,128人 / 交付金 2,547千円

西の里地区は、天然記念物である野幌原始林など、豊かな自然環境に囲まれた地区であり、自然環境と調

和できる住環境の形成や、各種施設の充実による地区の中心地の形成が進められています。地区を象徴する特徴的な事業が「西の里音楽祭」です。美しい音楽を通じて、新しく移り住んだ子育て世代と長年地域を支えてきた高齢者層、学生たちが自然に交わる場となっており、世代の壁を越えた温かいコミュニティを形成しています。



(3) 大曲地区生涯学習振興会 (平成20年設立)

実績：34事業 / 50回開催 / 参加人数 1,239人
／ 交付金 2,749千円

国道36号などの沿線に集落が形成され、現在は戸建・集合住宅や商業施設などが立地しており、周囲の自然と調和した良好な住環境の形成を目指しています。



特徴的な事業が「300歳ソフトボール」です。参加選手の合計年齢を300歳以上とすることで、若い世代とシニア世代がチームとなって交流できる事業であり、地域コミュニティづくりには欠かせない取り組みとなっています。

(4) 東部地区生涯学習振興会 (平成24年設立)

実績：27事業 / 37回開催 / 参加人数 1,052人
／ 交付金 2,722千円

明治17年(1884年)の広島県人の集団入植によって開拓が始まった、本市発祥の地です。市役所などの公共施設をはじめ、商業施設、高校や大学、芸術文化ホールなどの文教施設が集積しています。当地区は市内で唯一水害の被害を経験した地域でもあり、「東部防災教室」を定期的の実施しています。小中学生と地域住民と一緒に防災・減災について学ぶことにより、多世代交流や地域コミュニティづくり、防災力の向上につながっています。



5 地域主体がもたらした成果と波及効果

これらの取り組みは、本市に単なるイベント成功以上の、定性的成果をもたらしています。

■交流・連絡調整機能の向上

振興会がハブとなることで、各団体が互いに参加しあうなど、相互の連携・協力体制が容易になりました。一つの団体だけでは実現できなかった事業に地域全体で取り組むことができるようになり、地域の交流・連絡調整機能が飛躍的に向上しています。

■人材創出の機能の向上

住民主体で事業を企画・運営するため、必然的に多くの市民が役割を持つこととなります。「教える側」「支える側」としての能力を開花させる住民が増え、地域活動に参画する機会が増加し、地域を担う新たな人材が次々と創出されています。

■学習機会の提供機能の向上

参加したい講座や健康づくりの教室など、地域の要望に基づく事業を地域の方々自らの企画で実施できるようになりました。これにより、真に求められている学習機会が充実し、住民の学習意欲の向上につながっています。

6 今後の課題とこれからの展望

20年にわたり実績を積み重ねてきた本市の生涯学習振興会ですが、時代の変化とともに新たな課題も生じており、協働して以下の対策を進めています。

■担い手の支援とコミュニティ・スクール(CS)連携

長年、情熱を持って会を引っ張ってきた中心メンバーの高齢化が進み、次世代の役員への引継ぎや新たなつながりづくりが課題です。共働き世帯や現役世代は時間的な制約が多いため、今後はCSや地域学校協働活動との連携強化について検討し、学校を核とした持続可能な応援体制を構築していく必要があります。

■団地地区における生涯学習の振興方策

生涯学習振興会の設置のない団地地区では、すでに民間事業者や公共施設の指定管理者が主体となり、多様な学びの機会が提供されています。

この実情を踏まえ、民間事業者等と行政を結び、学びに関するネットワーク「さんぽまち学びネット」を形成しました、

適宜情報交換を行い、それぞれの強みを活かした連携を図ることで、地域一体となった生涯学習の振興を進めています。

■まちづくりに資する人づくりとサークル化の促進

単なる趣味的な講座や教養講座の提供にとどまらず、「まちづくりに資する人づくり」の視点を再確認し、一過性のイベントで終わらせるのではなく、事業参加者による自主的な団体・サークル化を意図的に促す事業の企画・運営に着手しました。学びが直接地域の課題解決や、持続可能な組織活動の創出につながるよう、伴走、デザインを進めています。

7 おわりに

「生涯学習振興会」の取り組みは、人と人、人と地域、そして学校と地域を繋ぐ強力な接着剤として機能してきました。行政がすべての住民ニーズを網羅して解決することは、財政的にも物理的にも困難です。だからこそ、住民自身が主体となり、地域の特性を活かして知恵を出し合い、支え合う自律的なコミュニティの価値は、今後さらに高まっていきます。

本市は、これからも地域住民の皆様の熱意に寄り添い、共に汗を流す「良き伴走者」として、誰もが「このまちに住んでよかった」「これからも住み続けたい」と思える未来を地域と共に共創していきます。